

地域をつなぐ環境教育の可能性

ーベトナム・ダナン市におけるプロジェクトの事例ー

中村 範子

キーワード：ベトナム、環境教育、地域づくり、住民参加

1. 研究の背景と目的

多種多様な環境問題の解決が国際的な課題である中、近年、環境教育の役割が世界中で注目されている。人と自然との関係改善だけでなく、人と人との繋がりを築く効果もあり、「地域」の主体的な参画による環境教育が期待されている。研究対象地のベトナムにおいても、急速な経済成長に伴う深刻な環境問題に対して、環境教育が重要な政策として位置付けられており、各地で環境教育が展開されてきている。しかしながら、それらは学校の中で知識を与える事に特化したものが主流であり、その指導体制も確立されていない。また、ベトナムの環境教育に関する研究は少なく、その内容も学校教育における環境教育の重要性や課題に限られている現状にある。

本研究の目的は、ベトナムのダナン市で実施された環境教育プロジェクトの活動をもとに、地域の多様な主体が連携して取り組む環境教育の可能性を、現地でのアンケート調査やインタビュー調査の分析結果から明らかにすることである。さらに、世界各国が途上国支援に基づく多くの環境教育プロジェクト活動が展開されていくことが予想される中で、今後、外部の者が果たせる役割を考察する。

2. 環境教育プロジェクトの概要

2006年3月から2010年3月まで、地球環境学堂はベトナムのダナン市において環境教育プロジェクトを実施した。本プロジェクトは、現地の大学や行政、小学校、そして住民たちといった多種多様な関係者との連携で行う形式で進められ、ダナン市にとっての新しい試みとなった。このプロジェクトでは、対象地域の住民や小学校に通う子どもたちの環境問題に対する意識の向上を目的として、地域の小学校やコミュニティセンターを通して、タウンウォッチング、清掃活動、池の水質浄化活動、ワークショップ、そして環境教育等の様々な活動が実施された。

3. 研究の方法と結果

環境教育の活動の拠点となっていた Vo Thi Sau 小学校に通っていたプロジェクト活動の対象学年の児童と、その家族へのアンケート調査を実施した。得られたデータをクロス集計等により分析を行い、さらに回答者の居住地の情報によって作成したデータを GIS を用いて空間的に配置し、居住区ごとの回答の特徴を抽出した。これらの分析結果をもとに、活動の参加の有無による比較や、居住区ごとの生活環境に対する問題意識の比較を行った。これに加え、関係者へのインタビュー調査も実施し、得られた情報の整理、および解析を行った。

その結果、活動への参加と、生活環境に対する関心に密接な関わりがあり、参加者は不参加者に比べ、より高い意識を持っていることを定量的に示した。また、地域ごとの地理条件や環境状況によって、住民が問題としている対象や、重要としている要素が異なることが明らかになった。

4. 結論

地域の多様な主体の連携による環境教育は、その目標である環境保護や持続可能な社会のための「態度」と実際の解決に向けての「参加」という行動を結びつける効果があり、さらに地域の中の様々な人や場をつなぐ可能性がある。また、環境教育の実施体制や内容が発展途上にあるベトナムのような地域では、ダナン市で実施されたプロジェクトベースでの連携を通じた新しい仕組みを広く伝えること、地域住民が主体的かつ持続的に活動を行っていけるような土台を築くことが外部の者の果たすことの出来る重要な役割として考えられる。その際、それぞれの地理条件や環境状況によって、住民が問題としている対象が異なるため、地域ごとの環境を空間的に考慮した上で、活動内容を組み立てる必要がある。そのような住民では気づきにくい地域の環境や特徴などの新しい一面を発見する機会を提供することも外部の者の役割として期待できる。